

生涯学習センター建て替えへ

北大院生が町民調査

上士幌利用頻度や満足度

【上士幌】2015年度として、北大大学院工学研に予定されている町生涯学習センターの建て替えに向け、町などが取り組んでいる基本構想策定事業の一環

として、北大大学院工学研究院の学生が町内で町民の生活動向や施設の利用実態などを調査した。

新施設は学童保育所や生きがいセンターなどの公共施設も統合させる予定で、世代間交流をテーマに少子高齢化社会に対応できる施設整備を目指す。町は現在、北大と地元のNPO法人「上士幌コンシエルジュ」(田西長徳代表)とともに、町の世帯状況や各種公共施設の利用者ニーズなどの調査を進めている。



町民(左)にヒアリング調査をする学生たち

今回は町公共施設整備基本計画構想アドバイザーを務める北大の

森傑教授と、研究室に所属する学生5人が来町。9月25～30日に生涯学習センターや生きがいセンターなど11施設で、施設の利用頻度や目的、満足・不満点、交通手段やルートなどについて町民に直接ヒアリング調査した。

学生たちは「施設の利用ニーズや、住民がどのようにまちの中を動いているのかなどを調べることで、今後の施設整備の計画に生かしていければ」と話していた。基本構想は来年1月末までに取りまとめる予定。

(津田恭平)

ぐんま県と18町村

聞き取りに協力を

新生涯学習センター構想 策定へ北大調査

で
から
幌
士
25日
上

【上土幌】2015年度に予定されている町生涯学習センターの建て替えに向け、町などが取り組んでいる基本構想策定事業の一環として25～30日、北大大学院工学研究院の学生が町内各所で、町民の生活動向や新施設の在り方などについて町民に直接聞き取り調査を行う。町は協力を呼び掛けている。

新施設は学童保育所や生きがいセンターなど町内に

点在する公共施設を統合させる予定。世代間交流を大きな柱とし、少子高齢化社会に対応できる施設整備を目指す。現在、町は北大と地元のNPO法人「上土幌コンシェルジュ」(田西長徳代表)とともに、町の世帯状況や各種公共施設の利用者ニーズなどの調査を行っている。

今回の調査では、町公共施設整備基本計画構想アドバイザーを務める北大の森

傑教授と研究室に所属する学生が来町。生涯学習センターや町ふれあいプラザ、生きがいセンターなど町内各施設の利用実態を調べる他、商店街などで生活動向について町民に聞き取り調査を行う。

町は「施設建設に向けた大事な調査なので、ぜひ協力してほしい」と話している。基本構想は来年1月末までに取りまとめる予定。

(津田恭平)